

木綿問屋川喜田家史料（Ⅱ）

—元禄5年～享保5年—

林 玲 子

本稿は『流通経済大学論集』Vol. 11, No.1所収の「木綿問屋川喜田家史料」(Ⅰ)に続くものである。前回は寛文10年(1670)から元禄4年(1691)までの経営動向を「目録帳」と題された史料によって紹介し、またこれに続く「目録牒」により元禄5年の店卸勘定内訳を示した。今回は「目録牒」を中心に、元禄5年～享保5年(1720)における経営動向を紹介することとする。ただし、「目録牒」では元禄6,7年分は貸借勘定のみで損益勘定は記載されておらず、元禄8～14年に関しては全く記述がないので、この間については、各年次決算書類で一部補った。

1. 貸借勘定(第1表参照)

まず前回同様、貸借勘定の動きを表示してみよう。表の作成については、できる限り前回到合わせ、項目記号は前回第1表につながるよう配慮した。ただ、同一項目の内容が分化している年があるので、その場合はA-1, A-2, A-3といった工合に小番号を付したが、A-2, A-3にあたる項目が記載されていない年は、A-1のなかに含まれてしまっているとみてよいであろう。また、「目録牒」では家屋敷など不動産関係の記載がないので、全資産の動向をみることはできない。

「A-1残かけ」は、元禄10年代には1,000両を超

第1表 川喜田江戸店 貸借勘定

年代	A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	C	D-1	D-2	F	G	H=A~G	K	L=H-K	備考
	残かけ	町間残屋か内中け	八取丈替へ有	方送り々金	八買見仕物買参丈金入仕候小物私荷切分	貸金	八貸丈衆金	店売物	有銭金銀	計	売外金立預共其引	差引		
元禄 5	707.3			807.1		1,252.1	2,407.2		222.1	559	5,956.3	2,970.2	2,986	
6	390.1			1,342.1	25.2	1,951.2	2,705.2		309.3	692	7,417.1	4,298.2	3,118.3	
7	429.1			826		1,505.1	2,151		284	398	5,594	2,223.2	3,370.2	
11	1,187.1			826.3		1,260.3	2,814.3		248	1,163.3	7,501.3	3,205.2	4,296	
12	715.2	477.3	18.3	1,130.3		1,337.2	2,775.3	399.2	287.3	748.2	7,892.3	3,215.2	4,677.1	
15	838.1	574.1		1,512		1,668.2	2,896		222	1,564.3	9,276.1	4,082	5,194.1	
16	1,013	684	70.1	1,896.1		1,767.3	2,503	335.1	212.2	1,301	9,783.3	4,555.3	5,228	
宝永 1	1,020	793.3		2,124.3		1,760.2	3,636.3	380.3	319	1,251	11,287.2	5,374.1	5,913.1	
2	1,739.1			1,822.2		1,485.2	3,121		432.2	2,738.2	11,339.3	5,258.3	6,080.3	
3	1,769.3			1,927		2,221	4,285.2		514	1,234.2	11,952.1	5,273.2	6,678.2	
4	1,156.1			1,470.3		2,904.2	4,569.1		606.1	2,026	12,723.2	5,301.3	7,421.2	
5	1,722			1,761		3,488.2	2,845.2		639.2	2,571.2	13,028.3	5,849	7,179.2	
6	1,975.2			2,037		3,170.2	3,963.2		461	1,757.1	13,365.3	6,027.2	7,338.1	
7	1,569.3			1,818		3,305.2	3,181.1		905.3	2,469	13,249.3	5,636.3	7,612.3	
正徳 1	1,266.2			1,831.2		3,703.2	4,937.1		588	482.1	12,809.2	4,379.3	8,429.2	
2	1,475.3			1,486.3		4,049	2,875.1		522.3	3,771.2	14,181.2	5,360.2	8,821	
3	1,577			1,612		5,542.3	4,322.1		663	4,212.1	17,930	8,781.3	9,148.1	
4	947			1,326.1		7,592.2	4,306.3		793	3,313	18,278.3	8,219.1	10,059.1	
5	244.2			3,957.3		9,076.3	4,494		991.3	384.2	19,150	7,789	11,361	
享保 1	224.1	2,082		4,061.3		6,468.1	7,333.3	142.2	1,273	681	22,267.1	8,597	13,670	
2	2,044.1			5,317.1		9,487.2	4,661.3		1,689	788.2	23,988.2	8,887.2	15,101	新金にて
3	2,159.1			4,140.2		13,135.1	5,414.3		645	2,482	27,977	12,080.3	15,896.1	全項目新
4	1,234			1,376		8,010.1	2,736.2		575.2	2,269.1	16,202.1	7,516.3	8,685.1	金
5	1,118			1,827.1		8,775.2	2,780.3		672.1	1,894.3	17,069.1	7,829.3	9,239.1	//

(注) 金1分未満、銀15匁未満切捨、銀15匁以上は金1両=銀60匁の換算率で金表示とした。また、計の数字は原史料によったものである。第2表、第3表も同じ。

えるようになるが、貸勘定合計の伸びに比較すると、増加の度合は一時的なものであり、宝永期を境に比重はむしろ低下していく。また、大伝馬町内の荷受問屋である売場問屋を中心とする仲間取引による残かけがかなりあったことが、「A-2 町内問屋中残かけ」を別記してある年の数字から想定される。一般の残かけに関係した顧客層については、後述の元禄11年「店算用日記」中の「残掛ケ」内容からみる限りでは、江戸市内の者が多かったと考えられるが、ただ前回紹介した元禄5年分と比較すると、小川・秩父・祖子(師)谷・磯貝・入間などの地名が現れてきており、江戸周辺や武州に商圈が拡大しつつあった状況を示している。しかしいずれにせよ、それ程遠距離ではないので、決算期までに売掛を回収することは地理的にはそれ程難しくはなかったであろう。

「B方々送り金」は、前回の第1表「B方々買物遣し金」と同性格の項目で、仕入のための前貸金である。前回に述べたように、元禄3年までは「C仕入荷物買仕切参候分」という項目はなく、元禄4年にBからC

が分化したらしい。元禄5年以降もその形式が続いており、BよりもCの方の伸びが著しい。Bの方は、買次に対しての前貸金であり、Cの方は買付けた商品が仕切によって明らかになったものであるが、いずれにしても仕入のための資金投下を示す項目であり、両者を合せた金額は貸勘定のなかで大きな割合を占めている。

貸金のなかには、前回に引続き八丈島とのつながりを示すものが含まれており、A-3、B-2の項目などからみても、種々な形で取引が行なわれていたとみてよいであろう。

これら諸項目を合した貸勘定の計をみると、元禄5年～享保5年の間、ほぼ順調な成長をみせており、享保3年から貨幣改鑄による新金建となったが、換算すればやはり伸びを示している。そしてこの伸びの主因は、前述した仕入のための前貸が増加してきたことにあるとみてよいであろう。

勘定目録では、この貸勘定計から、「K売立其外預り金共引」が差引かれ、その結果がその年の勘定高とされる。第1表のLがそれである。この数字も一応順調に

第2表 川喜田江戸店 借勘定の内訳

年 代	A 仕物参売 り仕候立 荷切内預	B 利預 足り 付金	C 当預 り 座金	D 平様預 四より 郎り金	E 新金 前 売	F 新ケ 入ヲ 掛取	G 若心け き当置 者の	H 心け 当置 の	I 家足ヲシ 金 貸金差テ 利遣引残	J そ の 他	K= A~J 計
元禄 5	567	346.3	248.2	1,687.2	28	42.1		50			2,970.2
6	677.3	615.2	269.1	1,562.2	65	130.1	80	70		827.2	4,298.2
7	498	517	158.1	756.1	55.2	88	150				2,223.2
11	323	608	989.2	777	48	109	350				3,205.2
12	519	611	496.3	777	34.3	147.1	400	150	78.3		3,215.2
15	518.1	603.1	1,115.2	1,053	71.2	21.2	600		98.1		4,082
16	503	709.1	1,241	1,151.2	92.3	13.3	650		193.2		4,555.3
宝永 1	1,142.2	801	1,207	1,275	160.2	68.3	600		118.3		5,374.1
2	845.2	803.2	1,548.3	1,161	52	82.2	765				5,258.3
3	830.1	817.1	1,423	1,161	47.2	49.1	945				5,273.2
4	687.1	586.1	1,127.3	1,161	124.1	714	900.2				5,301.3
5	1,649	673.3	1,258.2	1,161	54.2	91.3	960				5,849
6	1,779.1	700.3	1,181.1	1,061	91	74.3	1,100		38.3		6,027.2
7	1,524.3	690.3	1,228.2	1,000	65.3	40	1,086.2				5,636.3
正徳 1	1,009.2	332.2	1,185.3	900	40	51.1	860				4,379.3
2	1,778.1	425.1	1,067.3	900	128.1	60.1	1,000				5,360.2
3	3,697.2	729.2	3,038.2		22	143.3	1,150				8,781.3
4	3,983.3	936	1,862.2		35.3	50.3	1,350				8,219.1
5	4,491.1	821.3	688		122	349.2	1,316				7,789
享保 1	3,914	896.1	1,466.3		135	504.2	1,650			30	8,597
2	5,648.1	717.3	931		61.3	128.1	1,400				8,887.2
3	8,056.2	1,047	1,507.1		202.3	66.3	1,200				12,080.3
4	5,153.2	312	1,228		38	34.3	750				7,516.3
5	5,256	381.2	1,273.1		106.2	12.1	800				7,829.3

伸びてはいくが、ただ前回分と比較するとKの割合が大きく、その内容を検討する必要があると考えられる。

2. 借勘定の内訳 (第2表参照)

第1表のKにあたる借勘定の内訳を今回は表示することとした。このなかの「A仕入荷物仕切参候内売立預り」は、第1表「C仕入荷物買仕切参候分」として貸勘定のなかに含まれていた商品が、まだ仕切の決済がすまない中に販売された場合、残かけや有金銀など他の項目にその分は含まれることとなり、二重に勘定されるので差引く必要が生じるので作られた項目であろう。また「E新前売金」は、第1表「F店売物」=在庫商品の高を調べた後、決算書類を作るまでの間に現金で販売した分、「F 新入掛ヲ取」は第1表の残かけ類(A)を調べた後、決算書類を作るまでの間に売掛を回収した分ではないだろうか。おそらく、在庫品調べや残かけ整理は年末ないし年始頃に行なったであろうし、決算書類は多く2~3月頃に作成しているので、その間のずれの調整が必要だったのだろう。

こうした調整分以外の項目では、B、C、Dの各種預り金、「G若き者心当のけ置」が大きな割合を占める。預り金では、利足のつかない当座預り金が元禄末年頃から利付預り金より大きな金額を示すようになった。また「D平四郎様より預り金」は、元禄5年3月まで江戸店を支配していた川喜田平四郎=浄誓からの預り金で、別家衆への元手金合力などに使われている。Gは、別家として自立する奉公人への合力分の積立てであり、年々の利分のなかから控除された。「H心当のけ置」のうち、元禄5年の50両は用途が記されていないもので、Gと考えてもよいように思われる。元禄6年の70両は、勢州の蔵普請のために準備されたものである。元禄12年の150両は、Gとは別に「入用心当退ケ置」とされたものである。

「I家賃利足金遣ヲ差引シテ残金」は、この項目が書き出されてない年次は「C当座預り金」のなかに含まれている模様である。「J その他」のなかで、元禄6年の分は、824両1分が「八丈衆中新売」(Eに含まれるものか)、3両1分が「勢州ニ而十兵衛ニ取カヘ」

第3表 川喜田江戸店 損益勘定

年代	A	G	I = A + G	J	K = I - J	M	N = K - M	備考
	惣利高	出目	計	遣入諸用	差引	心のけ置	差引	
元禄 5	549.3	58	607.3	328.3	279		279	
11	811	90	901.1	712	189		189	
12	973	95	1,068	686.3	381.1		381.1	
13	754.1	64.1	818.2	572	246.2		246.2	
14	977.3	78	1,055.3	701.3	354		354	
15	895.2	90.1	985.3	644.3	341		341	
16	1,007	73.3	1,081	746.3	334		334	
宝永 1	1,553.2	106.2	1,660	975	685		685	
2	1,367.3	125.1	1,493	619.2	873.1		873.1	
3	1,228	114.2	1,342.2	649.3	692.2	95	597.2	
4	1,484	99.3	1,583.3	700.3	883	80	803	
5	1,253	91	1,344	610.2	733.2		733.2	
6	1,241.2	115	1,356.2	598	758.2		758.2	
7	1,819.3	116	1,936	661.1	1,274.2		1,274.2	
正徳 1	1,327.2	98	1,425.2	608.3	816.3		816.3	
2	1,388.1	95	1,483.2	692.1	791.1		791.1	
3	1,572	116	1,688.1	861	827.1		827.1	
4	2,195.1	121.2	2,316.3	905.2	1,411		1,411	
5	3,169.1	147.1	3,316.2	1,314.3	2,001.2		2,001.2	
享保 1	3,441	155.3	3,546.3	1,087.3	2,509		2,509	
2	2,831.3	137.2	2,969.1	1,038.2	1,930.3		1,930.3	
3	2,740.3	173.3	2,914.3	1,519.2	1,395		1,395	
4	1,600	80.1	1,680.1	843	837.1		837.1	全項目新金
5	1,288.1	61.1	1,349.3	695.3	653.3		653.3	"

であり、享保元年の30両は「いせ賄金預り」である。

3. 損益勘定(第3表参照)

今回の損益勘定の項目は、前回にくらべて簡単なものとなっているが、おそらく前回のA~Fに至る各種利益が、今回は「A惣利高」にまとめて記されるようになったと考えられる。いずれにせよ、「A惣利高」と「G出目」を合した利益金額(I)、あるいはこれから「J遣諸入用」や「M心当のけ置」(内部留保にあたるこののけ置分は、宝永3,4年しか記載されていないが、他の年次はJのなかに含まれてしまっているのではなかろうか)を差引いた金額(N)¹⁾の動きは、いくらかの変動はあるが総体的には元禄から享保にかけて増加しており、寛文~元禄初年の前回分よりも増加の度合いが大きい。おそらくこれは、ほぼ江戸市中に販売圏が限られていた前回の時点と、売場問屋の商圏を侵して関東に販路を拡大しつつあった今回の時点との相違からくるものであろう。これをさらに細かく検討するためには、「目録牒」に記された各項目の内訳が必要となるが、それを示す各年次店卸書類は、前回にあげた「目録牒」所収の元禄5年分を除けばすべて元禄11年以降のものとなる。

4. 元禄11年店卸書類

川喜田江戸店の店卸書類は、完全に揃った年次には次の6点からなる。

- ①惣勘定目録 ②利金遣差引覚 ③店算用日記 ④有金銀銭覚 ⑤金銀預り帳 ⑥利金帳

このうち①と②は、「目録帳」「目録牒」記載の内容と一致する。③は①の内訳である。④は①のなかの項目の1つである有金銀銭を、通貨の種類別に示したもので、木綿問屋という限られた業種ではあるが、江戸における貨幣流通の実態をみることのできる史料である。⑤は③のなかでは「利足付預り金」「当座預り金」「仕入荷物仕切参候内売立預り」の内訳が記されていないので、それを別帳としたものである。⑥は②の内訳である。すなわち、貸借勘定のまとめである①の内容を示すものとして③④⑤があり、損益勘定のまとめである②の内容を示すものとして⑥があるのである。

この6点の史料は必ずしも各年次揃っているわけではない。むしろ、早い時点では完全な年の方が少ない状態である。偶然ではあるが、各年次決算書類が遺さ

れたもっとも早い年次である元禄11年は、この6点が揃っているのも、元禄期における川喜田江戸店の営業内容を示すとともに、近世を通じての川喜田家の決算方式を紹介する意味で、この年次の店卸書類を全文あげてみたい。記載の仕方は前回の元禄5年分と同じく、原史料の数字表示を変えた以外はできうる限り手を加えていない。

なお、前回にも述べたように、「目録帳」には江戸の家屋数に関する記録があり、今回の「目録牒」には、別家に対する元手金供与の記録があるので、これらは他の機会にまとめて紹介したいと考えている。

元禄11年 店卸書類

① 寅年惣勘定目録		
	両	匁
	1,187.1	4.1
	2,814.3	10.5
	1,260.3	
	826.3	3.8
	248	7.5
	1,163.3	5.5
惣合	7,501.3	1.4
右之内預り金覚		
	608	3
	989.2	14.4
	48	10
	109	13.2
	300	
	50	
2口	350	
	777	8.4
	323	13.7
7口合	3,205.2	2.7
差引残而		
	4,296	13.7
此通店正味元金也		
但シ寅年勘定金高		
元禄12年卯2月20日		
同四郎兵衛 [㊟]		
(花押)		
川北久太郎殿		
② 寅年利金遣差引覚		
	両	匁
	811	2
内	712	6.8

右は残懸ケ
右はかし金
右は仕入荷物仕切参候分
右は芳々送金
右は店売物ニ而有
右は有金銀
右は利足付預り
右は当座預り
右は新売
右は新入懸ケを取
若キ者有付申心宛ニ退ケ置 但し申ノ年ノ丑ノ年迄
同断 但し寅ノ年利金之内
右は平四郎様ノ預り金
右は仕入荷物仕切参候内売立預り

1) 前回第2表中のN = I - (L + M) は、N = K - (L + M) の誤りである。

□ 入用ニ引

残金	98.3	10.2		0.2	3	紺や 三郎兵衛
	90	14	出目	5	5.8	中村 次郎右衛門
2口	189	10		4.3	7.7	同 喜兵衛
右之通寅年延金也				11.1	7.3	井筒や 八兵衛
4,107	3.7		但し丑ノ年惣勘定目録金高	15		富田や 孫兵衛
寅年延金合				7		同 太兵衛
4,296	13.7			7.2	4	同 重兵衛
				1.1	11.7	いせや 八郎兵衛
					6.8	秋山 徳左衛門
③ 店算用日記				3		竹町 五郎兵衛
残掛ケ				21.1	10.1	玉や 孫右衛門
両	匁				65.5	茶や 小四郎
		22.7	玉置 重郎右衛門	15		内ノ半三郎
1.1	9		同 四郎兵衛	12	14.1	小林 太兵衛
5.3	8		八丈地衆		6 (400文)	かる
2	6.8		上野 五郎太夫	0.2		内ノ新兵衛
91.1	1.3		布や 与兵衛	112.1	196.9	
278.1	3.9		近江や 清兵衛	1		池田 次郎右衛門
4.3	7.5		近江や 武兵衛		6	五十嵐 次右衛門
4.1	11.5		同		4.5	星 七郎兵衛
1.1	2.5		同	0.1	7.5	河北 久太夫
388.3	73.2			0.3	11.5	山田 貞兵衛
				2		見蔵坊
12.1	6.8		いせや 七兵衛	0.3	4	三谷 佐五右衛門
40.3	9.2		芝 伊兵衛	2.1	5.9	池田 七郎兵衛
4			橘や 忠兵衛	16.3	5	大坂や 加兵衛
1.3	9.4		山形や 七郎兵衛		1	同
5	12.2		芝 長兵衛		0.8	河北 七兵衛
11			田中 次郎兵衛	0.3	11.9	大嶋 与兵衛
3	5.9		いせや 八兵衛	9	10.3	わらひ 伝兵衛
	1.2		新嶋 又兵衛	3	0.9	飯田 六兵衛
0.1			同 惣七	12.3	2.8	同 長兵衛
	4 (2□0文)		伊右衛門・五郎兵衛	0.2	5.2 (344文)	小金 九右衛門
120.1	5.9		いせや 甚右衛門	1.2	10.2	同 武左衛門
1	10.4		鱒や 伊兵衛	6	11.6	神部 太右衛門
	20.3		料理 吉右衛門	0.3	11.5	小川 源養坊
2	6		竹内 弥市		4.1	秩父 武兵衛
	10.7		馬喰町 善兵衛	1	3.7	小沢 金右衛門
	4.4		下谷 治左衛門	13.1	2.1	飯田 利兵衛
	6.5		井上 孫八	72.1	120.5	
	5 (330文)		高浜 浄智			
	1.2	21.3	地藏院	0.2	12.7	祖子谷 利右衛門
	1.2		池田 庄八	2.1	7.5	同所 三郎右衛門
		16	来迎寺		3.3	同所 加兵衛
		3.4	差物や 七兵衛	0.1	7.5	同所 文左衛門
204.1	158.6			2	0.7	同所 主計
		5.8	小林 平右衛門	2.2	13.8	同所 甚左衛門
2			河北 七郎兵衛	1.3	3	同所 庄左衛門
2.3	14.5		此居屋敷	0.3	1.3	同所 九郎左衛門
2.2	5.9		同断	0.2	2.5	同所 浅右衛門
0.3	15.2		鈴木 七右衛門	1.1	13.7	磯貝 与兵衛
0.1	13.5		山本 甚兵衛	0.2	3.6	同所 亀之助

	6.7	同所 伊左衛門	0.2	1.2	山下 与惣兵衛
	4	同所 利兵衛	2		玉置 四郎兵衛
1.3	6.6	同所 次郎兵衛	1		同
1.2	10.7	同所 孫右衛門	414.3	36.7	
1.1	4	同所 太兵衛			
	6 (420文)	入間 平兵衛	0.1	6.8	玉置 重郎右衛門
142	1.2	升屋 治右衛門	25		芝 伊兵衛
5.1	6.8	同 善兵衛	35		竹内 平三郎
5		赤塚 平兵衛	100		同 加兵衛
54.1	0.5	同 太郎兵衛	50		市川 又兵衛
42	5.3	同 市右衛門	100		永田 庄兵衛
265.1	121.7		1		髪結 七兵衛
			100		相模や 市左衛門
7.3	2.5	久保寺 清兵衛	□		黒川 清右衛門
5		同 五郎助	60		山本 善九郎
8.3	5.1	富や 清八	100		河北 七兵衛
77.2	0.9	同 八郎兵衛	200		安濃や 次右衛門
27.3	12.5	久保寺 十兵衛	50		同人
	12.7	河北 久太夫	30		称念寺 引置申候
1	4.4	横町普請	56.2	12	小林 太兵衛
5.1	8.1	向屋敷普請	88		吉岡 久兵衛
133	46.2		300		岡本 伝兵衛・小津
惣	1,175.3				七兵衛
(一)			125		浅草 元悦老
金ニして	1,187.1	62匁かへ	100		竹内 孫右衛門
内			50		中村や 喜兵衛
120.1	5.9	いせや 甚右衛門	100		山路 権右衛門
375.3	3.8	町内問屋中	100		同
残金	691	芳々残り懸ケ	1,745.3	18.8	
			50		河北 七兵衛
借シ金					法真寺
10		大沢 市郎右衛門	5		内ノ半三郎
10		菊地 虎之助	50		小林 太兵衛
3		同	50		いせや 市郎兵衛
	7.5	御船 源兵衛	50		内ノ半三郎
145		山下 与惣兵衛 御	20		観音院
		船中江	5		畔柳 勘兵衛
135		玉置 重郎右衛門	2		油や 太兵衛
		御船中江	100		玉や 太郎兵衛
2		御船 五右衛門	100		三谷 長兵衛
4		同 九郎右衛門・	65		船井 源四郎
		八右衛門	50		井上 庄兵衛
1.3	10	山下 与惣兵衛	10		同
1.3	10	御船 四郎右衛門	24		大桃 次郎兵衛
20		玉置 四郎兵衛	1		芳賀 藤右衛門
10		御船 伊兵衛	15		同 久兵衛
4		山下 与惣兵衛	10		同 太兵衛
51.3	8	上野 五郎太夫	5		古町 六郎左衛門
3		白井 新左衛門	0.2		のし戸 源太郎
2		梅田 清太夫	3		芳賀 平兵衛
7		菊地 忠右衛門	2		小津 吉兵衛
1		嶋 左衛門	36		

653.2		
(二)		
惣	2,814	55.5 此代金3分 10匁5分
内		
	415	43.5 八丈江かし有
残金	2,399	12
仕入荷物仕切参候分		
	241.1	5 会津綿
	39.1	13.6 結城 183反
	104.3	3.2 深谷買 1,500反
	97.2	8 鈴木買 1,400反
	46.1	5.1 磯貝 600反
	35.3	10.1 木村買 500反
	68	1.5 七兵衛買 絹 109疋
	50.2	0.7 残真岡 492反
	297	12 残大坂物 3,492反
	72.3	10 残伊勢 625反
	59.2	1.5 山本買 850反
	120.3	2.5 残いほう 358疋
	16	7.4 七尺物28, 六尺物 316, 五尺物 114, 手拭 218, 小切40反
	10	9.4 寅冬買真岡 114反
653.2	1,259.1	90

(三)
金ニして 1,260.3

方々送り金		
	50	林 孫右衛門
	50	芳賀 太兵衛
	36.2	7.2 嶋や 弥兵衛
	50	同
	55	同
	94.3	5.6 河北 久太夫
	10	同
	50	林 孫右衛門
	100	同
	100	7 深谷 半左衛門 7 匁 飛脚賃
	100	7 鈴木 伝左衛門 同
	100	7 林 孫右衛門 同
	30	樋口 作右衛門 同
653.2	826.1	33.8

(四)

金ニして 826.3 3.8

(五)

148 7.5 右は店売物ニ而有

(六)

1,163.3 5.5 右は店有金銀

六口合

7,501.3 1.4

右之内預り金之覚

608	3	右は利足付預り金
989.2	14.4	右は当座預り金
48	10	右は新売
109	13.2	右は新入懸ケを取 若キ者有付申心宛ニ 退ケ置 但し申ノ年 丑ノ年迄
300		右同断 但し寅ノ年 利金之内
50		
2口	350	
1,083.3	11	右は平四郎様ノ預り 但し寅ノ年家賃利足 金 遣差引して残金
43	12.4	
2口	1,127	8.4
此内		
350		但しかきや与右衛門 店仕舞元手ニ入
引残テ		
777	8.4	
323	13.7	右は仕入荷物仕切参 候内売立預り
7口合	3,205.2	2.7
差引残而		
4,296	13.7	

④ 有金銀錢覚

小判	547両	
分判	104両1分	
2朱判	50両3分2朱	
古小判	20両	
古分判	11両3分	
銀	227匁	
金1両	店出し金	
銀50匁	同	
錢1貫文	同	
錢1貫 239文	箱ニ有	
金 223両2分 11匁8分	両替ニ有	
惣合	金 1,158両1分2朱	
	銀 228匁8分 代金 4両3分 8匁5分	
	錢 2貫 239文 代金 2分 4匁5分	
金ニして 1,163両3分 5匁5分		
卯2月19日夕 改金銀也		

⑤ 金銀預り帳

利足付預り		
両	匁	
40.3	8.7	内ノ長助
9.3	2.1	内ノ八助
80.3	11.3	太神宮様

119	8	神宮寺	30		いせや 甚右衛門
8	2.2	河北 久八郎	20		小林 太兵衛
100		太田 与太夫	〆 56.1	12.6	
15.2	2.1	河北 久太郎	惣〆 988.2	74.4	
21.3	7.5	内ノ又兵衛	金ニして 989.2	14.4	
31.3		小野寺 作右衛門			
60	6.1	善光寺講			
〆 487.1	48		仕入荷物仕切参候内売立預り		
			186.2	8.8	寅冬買 いせ 2,129反
			25	11.96	結城 112反
120		河北 重兵衛	35.3	4.78	深谷買 500反
惣〆 607.1	48		12	1.05	三川中間 160反
金ニして 608	3		57.3	4	七兵衛買 絹 91疋
			1.2	1	会津綿 500匁
当座預			3.3	12.12	寅冬買 真岡 42反
1.2	3.45	道雲	〆 322.2	43.7	
116		新□	金ニして 323	13.7	
28		河北 久太夫			
	11.3	中村 三重郎	⑥ 利金帳		
103		近江や 清兵衛	両	匁	
130.1	4.7	買引金	112.1	7.3	盆前 前売
0.2		内ノ勘兵衛	132.1	12.5	盆後 前売
30		河北 七郎兵衛	48.3	8.8	盆前 分帳
93	8	小林 平右衛門	47	3.6	盆後 分帳
71	5.6	いせや 甚右衛門	5	14.7	残伊北
〆 573.1	33.5		12.1	13.5	いほう
			61	9.9	大坂物
6		小蔵敷	21		大坂残物
5		穴蔵板	3.2	2.9	いせ残り物
1		山下 与惣兵衛	〆 443	73.2	
50		永田 茂兵衛			
5.2	10.3	店賃	4.2	14.8	結城
38		会津綿	31.2	6.8	鈴木買 三川四仕切
80		普請ノ入目	2.2	12.3	井上買 三川
9.3	9.3	振廻入目	2	0.7	山本買 三川
0.1	1.5	見蔵□	9.3	14.3	寅春買 真岡
1	6.4	大坂や□	30.1	13.4	深谷買 三川四仕切
	1.3	田嶋 函書	1.1	12.5	丑冬買 真岡
34.2		渡部 林庵	28	9.3	林買 ほまち 三川
34		升や 善兵衛			四仕切
7		同 次□	15	13.9	残絹
6		久保寺 五郎助	20.2	6	林買中間 三川五仕切
7		同 三郎兵衛			切
14		升や 治右衛門	32.1	□.2	磯貝買 []
14		富や 清八	26.1	10	木村買 同五仕切
7		赤塚 太郎兵衛	3	7.3	新物袷
13		同 市右衛門	10.2	7.4	小津買 吉田
18		加嶋や 六郎兵衛	36.1	5.5	八丈衆
8		富や 加兵衛	1.2	1.8	□置 八丈紬
〆 359	28.8		1		福神講 取
			〆 256	139.2	
2.1	6.7	成直物 吉田 30反			
4	5.9	同断 同 50反	263.1	2	利足取

内	65.2	3.2	利足ニ出し		12.5	神津嶋 善吉
引残テ	197.2	13.8		0.1		三文字屋 長兵衛
右之金ニツ割					3.8	高力 長左衛門
	98.3	6.9	右ハ平四郎様分		32.6	宇野 善兵衛
	98.3	5.3	店分	8.2	4.5	さかいや 与兵衛
		5.3	いせや 甚兵衛 古		6.8	同
			掛ケ取	8.1		同
		27.5	増本 郡兵衛 同	1.3	0.9	松屋 庄兵衛
	0.3		馬場 太左衛門 同	1.3	14.2	吉田 八右衛門
	1.2	0.6	中村 □ 同		2.3	新宿 五郎
	0.3		新嶋 彦兵衛 同	30		称念寺
	0.3		三井 六右衛門 差	51.3	2.□	
			引取銀違			
	0.3		いせ木綿染ニ遣ス	17	1.9	名古や舟損有
			□	28		半四郎舟之損ニ退ケ置
	1.1	11.8	御座売代			置
〆	104.2	53.1		38		会津綿売損退ケ置
				80		普請入用退ケ置
	3.1		八丈御用木綿利	8		振廻入用退ケ置
惣〆	806.3	265.5		30		いせや 甚右衛門損
金ニして	811	2	62匁かへ			ニ退ケ置
内				20		小林 太兵衛預ニ退ケ置
	106.1	9.9	盆前遣			小屋懸ケ入目
	155.2	10.2	盆後遣	32.2	4.1	居間普請入目
	11	10.1	久太夫下り遣	59.3	7.5	若キ者有付申心宛ニ
	6.1	5.8	金兵衛・善三郎 登	50		
			り遣	363.1	13.5	
	13	3.2	利兵衛 同	惣合 712	6.8	
	2.1	7.6	有荷物ニ而引	差引残而		
	1.3	3.9	懸ケ金之内まけ引	98.3	10.2	
〆	296.3	5.7		90	14.8	出目
				2口合 189	10	
引懸ケ						右之通寅年延金也